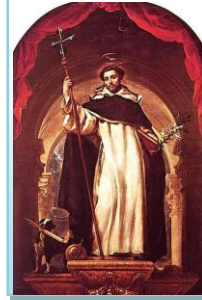


8月8日

司祭修道士ドミニコ

Domingo de Guzman Garces
(1170頃～1221)
～修道会ドミニコ会の創立者～



17世紀の絵画

ドミニコ(人名辞典ではドミニクス)はスペイン出身の司祭で、ドミニコ会の創立者として知られる。彼はスペインのカラルエガで生まれ、パレンシアの大聖堂付属学校で神学・哲学を学ぶ。

その後、オスマの大聖堂参事会員として、司教ディエゴを助け働いていた。そんな折、ドミニコは司教とともにデンマークに行くのだが、その途中で通った南フランスで、アルビ派の人々と出会う。当時アルビ派は異端とされており、ドミニコはキリスト教信仰から外れている彼らを見て心を痛め、彼らに対する宣教こそが自分の使命であると考えた。しかし、彼がアルビ派の人々に宣教しようとしても、ことごとく失敗に終わっていった。

そこでドミニコはこのように考えた。

「立派な服を着、立派な馬に乗っていて、どうして人々をキリストのもとに導くことができようか」

そして彼はルカ 9:1～6 を文字どおりに実行し、「貧しいキリストの使徒」として粗末な服を着、裸足で何も持たずに、托鉢をしながら各地で説教を行い、仲間を集めていった。その間、十字軍による第二次アルビ派討伐の攻撃が加えられたが、その中でも彼はアルビ派の人々を理解し、そして説得を繰り返していった。

彼の周りにはいつしか彼の行動に賛同する人が

集まって来た。だがその当時の一般の司祭の教育レベルは低かった。そこで説教の質を上げるため、「説教訓練所」を設立する。この集団は Orad Praedicatorium (説教者修道会)となり、アウグスティヌスの戒律を会則として採用する。ドミニコは説教を通して全世界に福音を伝えることこそが自らの使命だと感じていた。当時の教皇は新しい修道会の設立を禁止していたのだが、夢の中で教皇のいる大聖堂を二人の人物、ドミニコとアシジのフランシスコが支えているのを見て、その集団を修道会として認めたという。

ドミニコ会はイタリア・スペイン・フランスなどで有力な修道会であり、アルベルトゥス・マグヌスやトマス・アクィナスなど多数の人物を輩出してきた。またドミニコはロザリオの祈りの創始者とも言われている。(Y)

<特禱>

全能の神よ、あなたの恵みによって聖霊の愛の炎をその心に燃やした司祭修道士ドミニコは、公会の燃えて輝く光となりました。どうかその信仰と愛によってわたしたちを燃え立たせ、光の子として常にみ前を歩ませて下さい。主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン